

授業科目名	戦争と平和	単位数	2
担当教員名	大嶋 英一	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	外交の実務経験を踏まえ、実践や問題解決に役立つ議論を行う		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>戦争と平和というテーマを日本と近隣諸国の関係から学び考えることで、学位授与の方針のうち特に「多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につける」ことに寄与する。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>国際関係を論ずる際にもすれば陥りやすいのは、日本の視点だけから近視眼的に物事を見ることである。本コースでは戦争と平和をテーマに歴史的視点から国際関係を捉えられるようになることを目標とする。</p> <p>(テーマ)</p> <p>(1) 安全保障観の違い (2) 紛争の要因 (3) 紛争の平和的解決 (4) 共生的な世界を築くために</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本コースでは、国家間の安全保障観の違い、対立の背景にあるナショナリズム、ロシアのウクライナ侵攻や中国の台頭など最近の国際情勢の変化を歴史的視点に立って講義する。また、レポート課題や学修指導書の各テーマに関する研究課題に関しディスカッションを行い、国と国が共生する方途を考える。</p> <p>なお、本コースは別途開講される「国際関係論」の知識を前提としているので、同科目を既習であることが望ましい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：はじめに 第2回：日本・中国・韓国の安全保障観 第3回：国際関係理論と現実 第4回：ナショナリズムと歴史問題 第5回：領土・海洋問題 第6回：経済と紛争 第7回：紛争の平和的解決 第8回：国連と紛争解決 第9回：国際協調-戦後国際秩序と普遍的価値 第10回：ロシアのウクライナ侵攻 第11回：中国の台頭 第12回：核不拡散と核の傘 第13回：日本の安全保障と安保法制 第14回：日本の国際貢献 第15回：共生的世界を築くために</p>			

定期試験

スクーリングでの学修内容

本コースの4つのテーマ[安全保障観の違い、紛争の要因、紛争の平和的解決、共生的な世界を築くため]についてエッセンスを講義し、ディスカッションを行い、さらに受講者の質問に答える。

教科書

- (1) ジョセフ・ナイ他(2017)『国際紛争(原書第10版)』有斐閣
- (2) 加藤陽子(2016)『それでも日本人は「戦争」を選んだ』新潮文庫

参考文献

- (1) 高校用世界史B・日本史B教科書(基礎的な歴史的事実を確認するために)
- (2) 加藤陽子(2016)『戦争まで』朝日出版社
- (3) 橋本明子(2017)『日本の長い戦後』みすず書房
- (4) 田中均(2015)『日本外交の挑戦』角川新書
- (5) 山影進(2012)『国際関係論講義』東京大学出版会
- (6) 白石隆他(2012)『中国は東アジアをどう変えるか』中公新書
- (7) ビル・ヘイトン著、安原和美訳(2015)『南シナ海』河出書房新社
- (8) 明石康『国際連合』(2006)岩波新書
- (9) 長有紀枝(2021)『入門 人間の安全保障 増補版』中公新書
- (10) 『日本の軍縮・不拡散外交』(外務省HP <http://www.mofa.go.jp/mofaj/>からダウンロード可)
- (11) 『防衛白書』(防衛省HP <http://www.mod.go.jp/>からダウンロード可)
- (12) 『「平和安全法制」の概要』(内閣官房HPからダウンロード可)
- (13) 芹田健太郎(2010)『日本の領土』中公文庫
- (14) 高坂正堯(1966)『国際政治』中公新書

学生に対する評価

スクーリング評価(25%)、レポート評価(30%)、科目修得試験(45%)を総合して評価する。